



菊の花にうめつくされて……

名誉市民 佐々木耕郎氏 死去

市制後初の市民葬でお別れ

日光市名誉市民（七名）で、ただお一人ご健在だった前日光市長の佐々木耕郎氏（八三）が、十月一日午前五時十五分、療養入院中の獨協医科大学病院で、老衰のため亡くなられました。

氏の死去に当たり、市では、市制施行後初の市民葬（葬儀委員長、星野仁十郎市長）を十月二十一日、総合会館で厳粛に執行、市民の多くが集って、生前の功績をしのびつつ、永遠のお別れをしました。

佐々木氏は、明治二十八年八月二十一日、岩手県盛岡市に生まれ、高千穂高等商業学校卒業後、大正六年四月、古河鋳業（株）日光電氣精銅所に入社、以来人生の大半を日光で過ごされました。

昭和二十一年十月、古河電工（株）日光電氣精銅所を勤労部長で退職され、栃木金属工業（株）や別倉製作所などの社長に就かれま

した。昭和二十六年四月、栃木県議会議員に当選、二年後の二十八年八月には第十八代日光町長に就任されました。翌二十九年二月十日の市制施行とともに初代市長に就任、以後四十四年八月まで市長職を四期勤められました。ご在任中の数多くのご功績は、その卓抜したアイデアとともに永く日光に残るものです。反面、ボーイス

カウトの偉大な指導者としても活躍されました。また、トーテムパークやフィールドアスレチックを創設するなど、青少年の教育にも熱心な方でした。

昭和四十六年二月、日光市名誉市民にご推戴。温厚なお人柄は、市民の信望を集めていました。

おごそかに

市民葬

市制後初の市民葬は、十月二十一日、午後一時から総合会館でおごそかに行われました。

関係者、市民など七百人が集い、輪王寺門跡による読経のあと、内閣からは正六位の位階伝達があり、星野仁十郎葬儀委員長長の追悼の辞のあと、国会議員、知事など多くの弔辞が、菊花に囲まれた佐々木氏の霊前に捧げられました。おびただしい数の花に囲まれた、佐々木氏の霊との別れを惜しむ焼香と献花の列が、いつまでも続いています。

教育資金にと

佐々木家から百万円

市民葬の二日後、佐々木家ご遺族の佐々木ユワさんと四男さんが市長室を訪れ、故人の意志として、子供たちの将来のために、教育資金百万円を市にご寄付になりました。市では、佐々木家のご高志にもとずき、寄付された百万円を、教育資金に役立てる計画です。

表紙のことは

シリーズ

日光ゆかりの文人

与謝蕪村

二荒や紅葉が中の朱の橋（蕪村）

神橋のたもと、東町側の広場に、蕪村の句碑がある。昭和五十一年九月二十七日、除幕されたばかりのもので、いかにもその場所にふさわしい風情の句碑。裏面には、句碑の由来も刻まれている。

蕪村は、江戸中期の俳人で、文人画家としても名高い。享保元年（一七一六）摂津毛馬村の生まれ。本姓は谷口だが、後に改姓。号は、宰鳥、夜半亭。幼時から絵に長じ、文人画を描くかたわら、元文二年（一七三七）二十一歳の時から、日本橋の早野巴人（下野烏山出身）に俳諧を学ぶ。その作風は、感性的、浪漫的で、芭蕉と並び称される。

巴人没後東北各地を旅し、寛保四年（一七四四）正月、宇都宮で歳旦帳を出し、初めて蕪村と称した。京都帰住まで、下野下総を歴遊。句碑はその時代の句。天明三年（一七八三）六十七歳で没した。